

「なのはな」の1日(夏期)

9:00~	お迎え、健康チェック
10:30~	朝の会
11:00~	健康体操
12:00~	昼食
12:30~	休憩、趣味活動
13:40~	プログラム
14:30~	お茶・お菓子
15:00~	帰りの会
15:20~	お送り



ご家族の負担が少しでもやわらぐよう努めていきます。「なのはな」の石川信幸師長は「認知症の方にとって限定されがちな生活の範囲を少しでも広げ、社会との橋渡しの役割を果たしていきたい」と話しています。



送迎バスで自宅へ

●重度認知症デイケアを利用するには

ご利用をご検討の方は、まず当院にご相談下さい。当院の外来を受診し、診断後のご利用となります。(見学や体験通所もできます)

●通所費用について

医療保険が適用されます。保険の負担割合により自己負担額が異なり、自立支援医療制度の利用も可能。また、他の介護サービスとの併用もできます。

○後期高齢者医療制度適用の場合

原則1割負担。(高額所得者は負担割合が変わる場合があります)

●自立支援医療制度の利用について

自立支援医療で支給認定されると、月額負担額の上限が所得に応じて設定され、利用日数等によっては負担額が大きく軽減されます。

※介護保険サービスとの併用例

- 自宅で朝夕に介護ヘルパーを利用し、日中「なのはな」を利用。
- 特別養護老人ホーム等のショートステイと「なのはな」を併用。
- グループホーム等の入所者が日中「なのはな」を利用。

●例えば、認知症でこのようなケースの方が利用しています。

- 家にこもりがちなので、他の人と交流することで刺激を受け、少しでも気持ちを解放させたいと家族が希望。
- 介護者の夫婦が共働きで、日中親が1人で過ごしているのが心配。
- ショートステイを利用しているが、ふだんの自宅での介護の身体的、精神的負担が大きく、家族の疲労が蓄積している。
- 自宅での入浴が困難なので、入浴サービスを利用したい。

ご不明な点はお気軽にご相談下さい。

学術研修レポート10

「支持的な精神療法」について

医療法人 至誠会 滝澤病院 理事長・獨協医科大学名誉教授 大森健一先生

6月の学術研修会では、獨協医科大学の大森健一名誉教授をお招きし、「支持的な精神療法」について、わかりやすくご講演をいただきました。

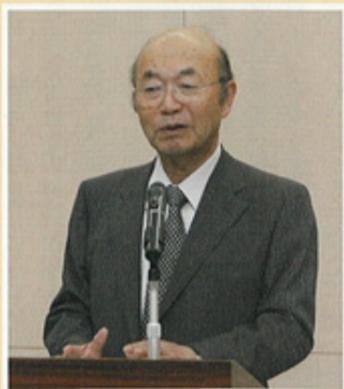
支持的な精神療法とは、精神療法の基本となる考え方であり、特定の理論的な枠組みがあるわけではありません。精神障害の原因の根底に直接働きかけ、操作することではなく患者様の支えとなって患者様の回復力に力を貸すことであり、病を克服するための支持的な治療者—患者関係、すなわち治療同盟の設立であると大森先生は話されていました。

また、治療者側の態度として重要視されるのは以下の2つであることを学びました。一点目は【支持的な態度】。支持的な態度とは、患者様をその心身の存在の根底から支えることであり、これはその場の要求をかなえることではないこと。二点目は【傾聴】。まず患者様の言

葉に耳を傾け、開かれた態度で適宜必要な質問をするなどして理解を深めるということです。

私たち医療従事者は主治医をはじめ、さまざまな職種のスタッフが日々患者様と関わっています。その中で今回の講演は、大変貴重なものとなりました。当院の基本理念にもあるよう、「深い愛と思いやりの心」を常に意識し、患者様の支えとなれるよう精進していきたいと考えます。

(第7病棟看護主任 宮武志伊)



多職種によるケアを行う

高齢者デイケア「なのはな」は、重度の認知症(Mランク)と診断された方が在宅での生活を維持するため、健康の保持や回復を目的に、レクリエーション活動、グループ活動、機能回復訓練などを行い、活動を通して生



朝の健康体操

きがいを見出せるよう支援する通所型の施設です。スタッフは医師、看護師、作業療法士、精神保健福祉士、ケアワーカーで構成され、多職種による総合的なケアを行うのが特徴で、現在、60〜90代の42人が登録されています。スタッフは、人生の先輩として尊敬の念を持ちながら「少しでも気持ち安らぐ楽しい時間を

活動、パークゴルフやスカットボールなどのスポーツと、作業療法士が毎月、内容を検討し、実施しています。和紙工芸では、ティッシュケースや小物入れなどを家族や親戚へのプレゼントとして作るメンバーも多く、「喜んでもらえてよかった」との声が聞かれています。

認知症の症状や進行度合いは一人ひとり異なりますが、季節や場所、なぜデイケアに来ているのか分からなくなり、混乱するケースもあり、スタッフは、時間場所感覚を持つていただくよう、送迎の車中やレクリエーションの中で、日時や季節と一緒に確認したり、行事などを通してリアリティオリエンテーションを常に心掛けています。毎朝30分の「朝の会」では、スタッフがその日のニュース、地域の行事などをピックアップし、メンバー様と会話



脳をトレーニングする学習会

を交えながら分かりやすく紹介しています。メンバー様のデイケアでの様子や健康状態は、毎回、連絡ノートを通じてご家族に報告し、逆に自宅や施設での様子もご家族からスタッフに伝えられています。「物を片付けた場所を忘れ、家族が盗んだと思ってしまう。部屋を探すと怒るので困る」と、被害妄想的になり、興奮しやすいメンバー様の「ご家族から相談が寄せられたケースでは、スタッフが「まず、本人の訴えを受け止め、一緒に探すなどしてはどうでしょうか」などとお話し、解決への糸口を少しでも見つけられるよう一緒に考え、知恵を出し合いました。また、月1回開催している「家族会」では、ご家族の皆様とスタッフが思いを語り合い、情報交換を行っています。先ほどのような物盗られ妄想のケースでは、ご家族の体験談が解決のきっかけになった例もあります。また、悩みや苦勞の尽きないご家族間でそれぞれの思いを共有し合うことで、「介護する勇気をもった」との声もいただいています。

個性に合わせて楽しみながら

プログラムは、お花見や納涼会といった季節の行事から、カラオケ、書道、和紙工芸などの趣味

活動、パークゴルフやスカットボールなどのスポーツと、作業療法士が毎月、内容を検討し、実施しています。和紙工芸では、ティッシュケースや小物入れなどを家族や親戚へのプレゼントとして作るメンバーも多く、「喜んでもらえてよかった」との声が聞かれています。

安心感のあるケアを目指して

メンバー様のデイケアでの様子や健康状態は、毎回、連絡ノートを通じてご家族に報告し、逆に自宅や施設での様子もご家族からスタッフに伝えられています。「物を片付けた場所を忘れ、家族が盗んだと思ってしまう。部屋を探すと怒るので困る」と、被害妄想的になり、興奮しやすいメンバー様の「ご家族から相談が寄せられたケースでは、スタッフが「まず、本人の訴えを受け止め、一緒に探すなどしてはどうでしょうか」などとお話し、解決への糸口を少しでも見つけられるよう一緒に考え、知恵を出し合いました。また、月1回開催している「家族会」では、ご家族の皆様とスタッフが思いを語り合い、情報交換を行っています。先ほどのような物盗られ妄想のケースでは、ご家族の体験談が解決のきっかけになった例もあります。また、悩みや苦勞の尽きないご家族間でそれぞれの思いを共有し合うことで、「介護する勇気をもった」との声もいただいています。

高齢化社会の中で認知症ケアの必要性がますます高まる中、「なのはな」は、今後、メンバー様やご家族、地域のニーズに「層」に応えられるよう、また、多くの不安や悩みを抱える

自分らしい生活を送るために 重度認知症高齢者デイケア「なのはな」 「涙が出るほどうれしい。いつまでも長生きしてください」と、メンバー様からお祝いの言葉が贈られる。「いつまでも仲良くしてね」と、この日の主役が真面目な顔で応えると、笑顔に拍手が沸き起こる。いつもの仲間と誕生日を迎えられたことの喜び、そんな気持ちに満ちあふれる「なのはな」メンバー様の誕生会のひとコマです。